

桐生商工会議所管内
景況調査報告書

第106回

(平成26年7～9月期)

平成26年11月
桐生商工会議所
桐生中小企業相談所

調 査 要 領

1. 調査目的 本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、情報化社会に対応した企業経営の指針とするとともに、今後の経営支援の参考に資することを目的とする。
2. 調査時点 平成26年9月1日
3. 調査期間 平成26年7～9月期
4. 調査対象企業数 396企業（うち回答企業数167企業）

5. 調査対象業種

①建設業（回答企業数19企業）

建築・大工業、土木業、管工事業、とび・コンクリート業、鉄骨・鉄筋業、電気工事業、左官・屋根業、塗装業、板金業、その他

②商業・サービス業（回答企業数86企業）

卸売業、小売業、飲食業、サービス業

③製造業

機械金属関連業（回答企業数32企業）

鉄鋼業、金属製品製造業、一般機械器具製造業、電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業、精密機械器具製造業、プラスチック製造業、その他

繊維工業（回答企業数30企業）

撚糸業、織物業、染色整理業、ニット・メリヤス業、レース業、縫製業、刺繍業、その他

DIとは、ディフュージョン・インデックス（D i f f u s i o n I n d x）の略で、このDIの変化を分析することにより経済動向の判断を行います。

このDIは、好転企業の割合から悪化企業の割合を差引き算出し、好転が悪化を上回る場合プラス（+）となり、逆に悪化が好転を上回る場合マイナス（-）となります。

DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要です。

1. 景況の動き

【業況DI】

今期の業況DIは、全体で**-29**。前期（-29）と同ポイントであった。また前年同期（-24）比では5ポイントのマイナスとなった。

業種別では、**建設業+5**（前期比+21、前年同期比+5）、**商業・サービス業-37**（前期比+5、前年同期比+11）、**機械金属製造業-35**（前期比-20、前年同期比-49）、**繊維製造業-24**（前期比-5、前年同期比±0）となった。

【採算DI】

今期の採算DIは全体で**-37**。前期（-35）比は-2ポイント、前年同期（-31）と比べると6ポイントのマイナスとなった。

業種別では、**建設業-16**（前期比+12、前年同期比+11）、**商業・サービス業-45**（前期比-1、前年同期比+6）、**機械金属製造業-35**（前期比-9、前年同期比-40）、**繊維製造業-25**（前期比-1、前年同期比-7）となっている。

【来期業況DI】

来期の業況予測DIは全体で**-25**。前期（-24）比は-1ポイント、前年同期（-22）と比べると3ポイントのマイナスであった。

業種別では**建設業-18ポイント**（前期比±0、前年同期比-3）、**商業・サービス業-37ポイント**（前期比-4、前年同期比±0）、**機械金属製造業-35ポイント**（前期比-19、前年同期比-54）、**繊維製造業-11ポイント**（前期比+2、前年同期比+12）となっている。

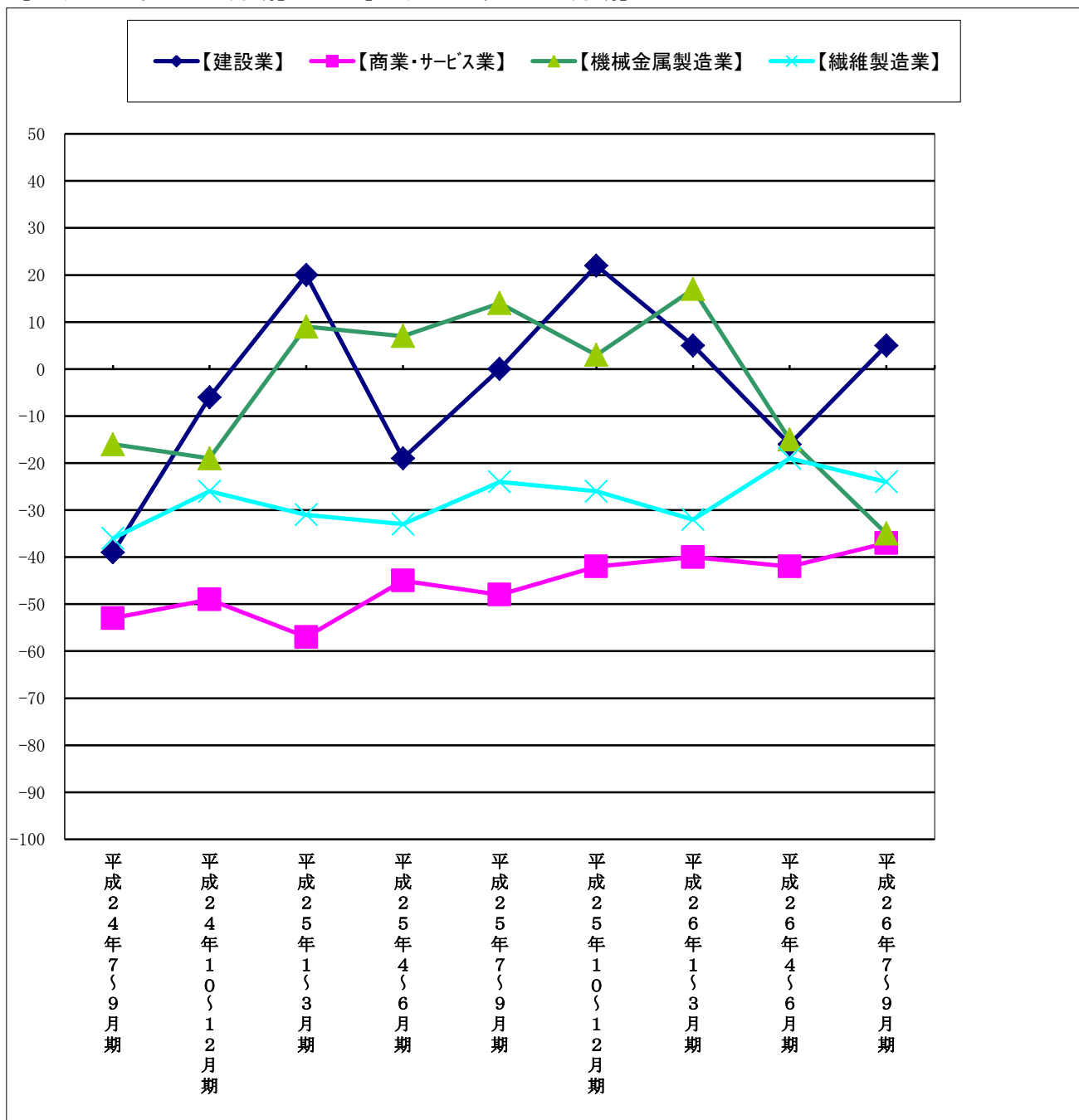
【経営上の問題点】

経営上の問題点としては、**建設業**では「民間需要の停滞」（13%）「下請単価の上昇」、「熟練技術者の確保難」（11%）**商業・サービス業**では「需要の停滞」（19%）「消費者ニーズの変化への対応」（13%）、**機械金属製造業**では「需要の停滞」（25%）「製品単価の低下・上昇難」（23%）、**繊維製造業**では「需要の停滞」（21%）「原材料価格の上昇」（12%）となっている。

業況DIの推移

	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
平成24年7～9月期	-39	-53	-16	-36
平成24年10～12月期	-6	-49	-19	-26
平成25年1～3月期	20	-57	9	-31
平成25年4～6月期	-19	-45	7	-33
平成25年7～9月期	±0	-48	14	-24
平成25年10～12月期	22	-42	3	-26
平成26年1～3月期	5	-40	17	-32
平成26年4～6月期	-16	-42	-15	-19
平成26年7～9月期	5	-37	-35	-24

[平成25年7～9月期] から [平成26年7～9月期]



2. 業種別の今期の業況・来期の業況予測

【建設業】

- 今期業況 **今期の業況D Iは+5**。前期比は+21、前年同期比は+5となった。
業種別では**建築・大工業 [+11]**、**土木業 [-33]**、**電気工事業[±0]**、**その他 [+100]**であった。
- 来期業況 **来期業況予測のD Iは-18**。前期比で±0、前年同期比では-3ポイントであった。

【商業・サービス業】

- 今期業況 **今期の業況D Iは-37**。前期比は+5、前年同期比は+11ポイントであった。
業種別では、**卸売業 [-17]**、**小売業 [-45]**、**飲食業 [±0]**、**サービス業では [-40]**となっている。
- 来期業況 **来期業況予測のD Iは-37**。前期比-4、前年同期比では±0ポイントとなった。

【機械金属製造業】

- 今期業況 **今期の業況D Iは-35**。前期比では-20、前年同期比では-49ポイントであった。
業種別では、**鉄鋼業 [+17]**、**金属製品業 [-33]**、**一般機械器具業 [-33]**、**電気機械器具業 [±0]**、**輸送用機械器具業 [-50]**、**精密機械器具業 [-50]**、**プラスチック製造業 [-67]**、**その他 [-75]**となっている。
- 来期業況 **来期業況予測のD Iは-35**。前期比-19、前年同期比-54ポイントとなった。

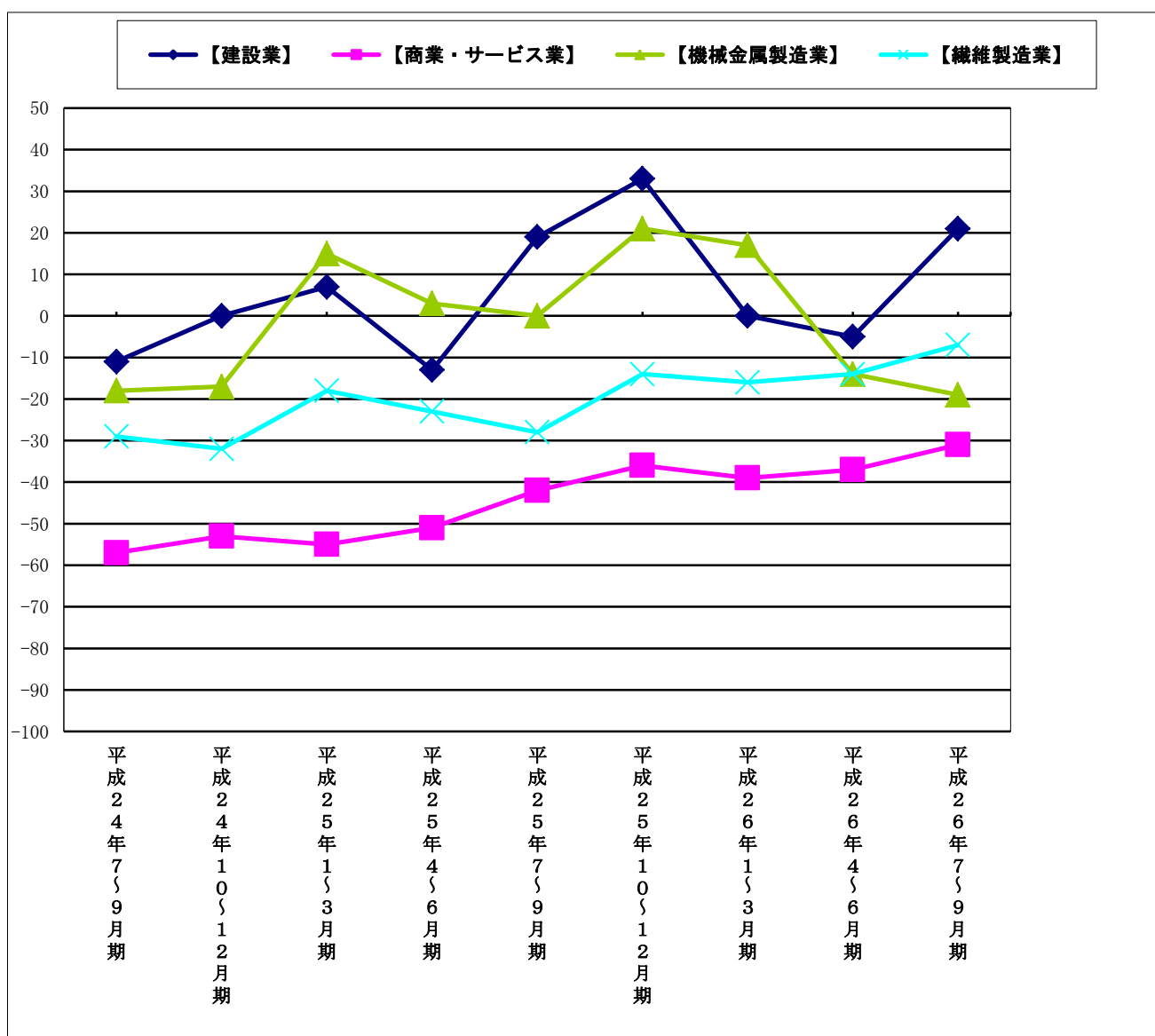
【繊維製造業】

- 今期業況 **今期の業況D Iは-24**。前期比では-5、前年同期比では±0ポイントであった。
業種別では、**燃糸業 [+100]**、**織物業 [+13]**、**染色整理業 [-75]**、**ニット・メリヤス業 [-33]**、**レース業 [-100]**、**縫製業 [-75]**、**刺繍業 [-40]**となっている。
- 来期業況 **来期業況予測のD Iは-11**。前期比+2、前年同期比+12ポイントとなった。

売上額（完成工事額）DIの推移

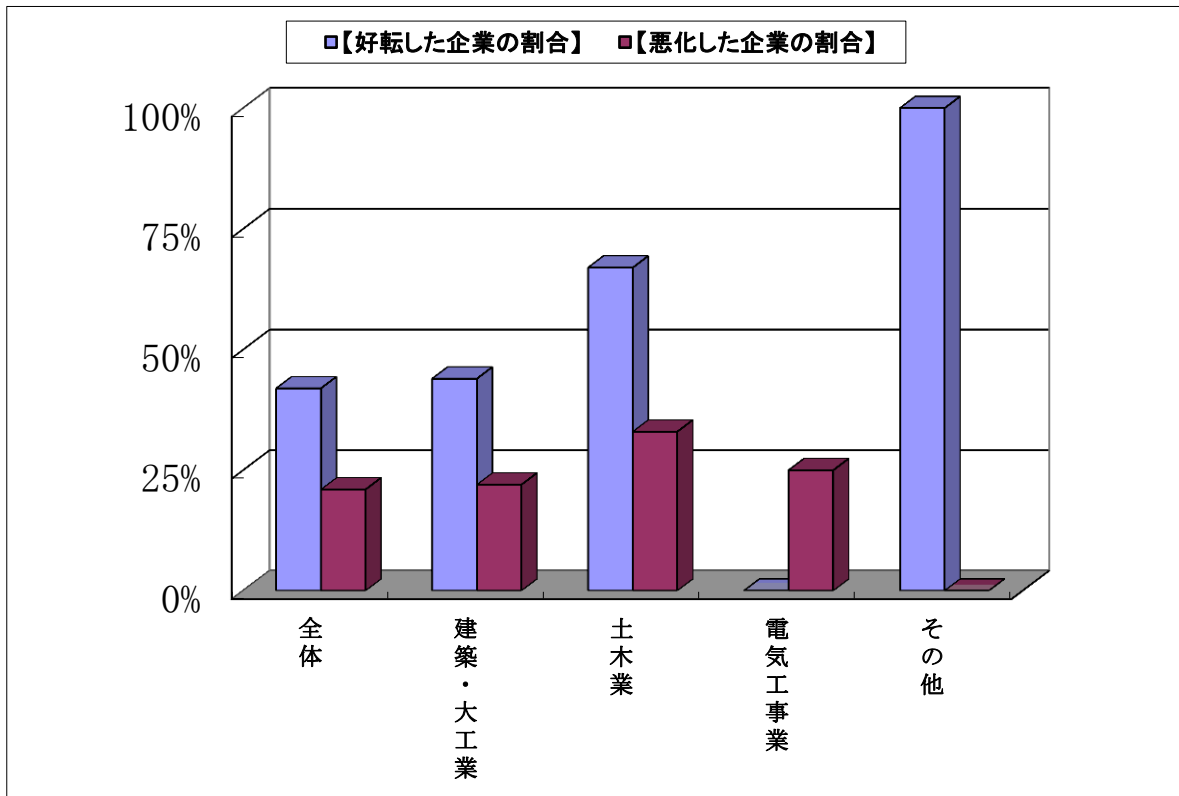
	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
平成24年7～9月期	-11	-57	-18	-29
平成24年10～12月期	±0	-53	-17	-32
平成25年1～3月期	7	-55	15	-18
平成25年4～6月期	-13	-51	3	-23
平成25年7～9月期	19	-42	0	-28
平成25年10～12月期	33	-36	21	-14
平成26年1～3月期	±0	-39	17	-16
平成26年4～6月期	-5	-37	-14	-14
平成26年7～9月期	21	-31	-19	-7

[平成24年7～9月期] から [平成26年7～9月期]

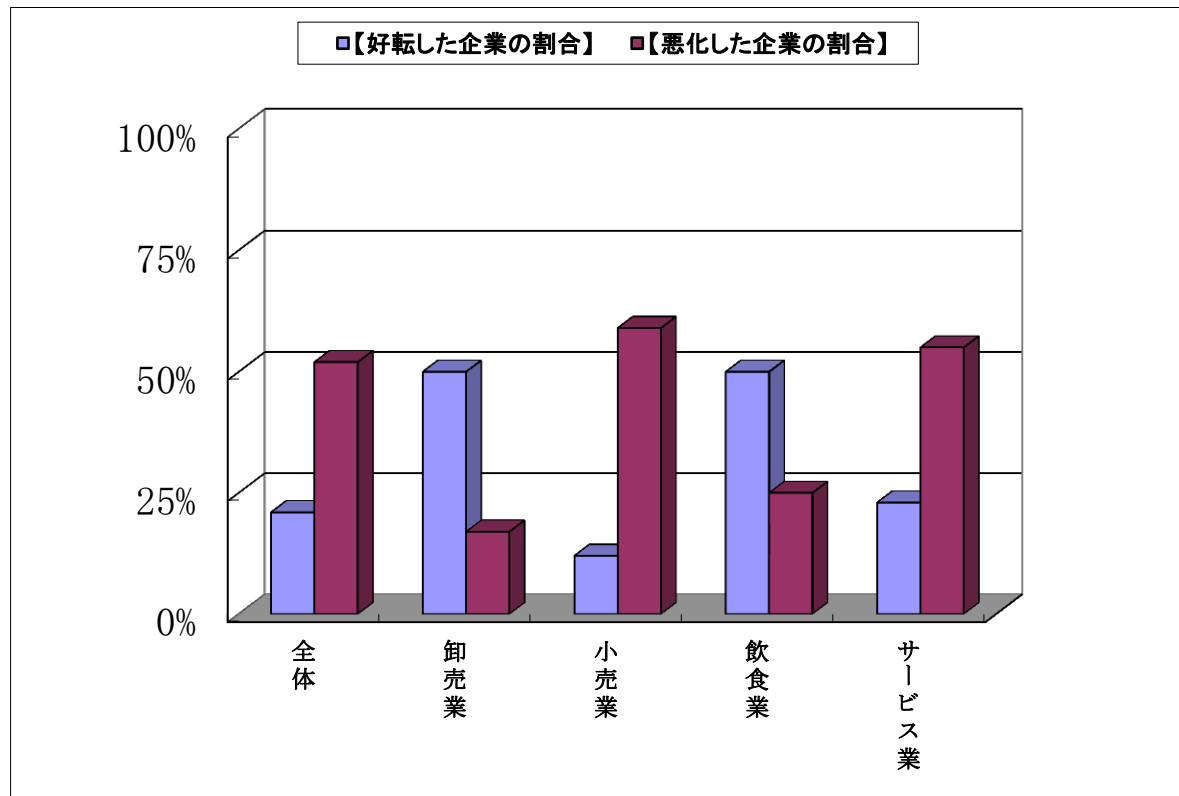


業種別売上額（完成工事額）の状況〈前年同期比〉

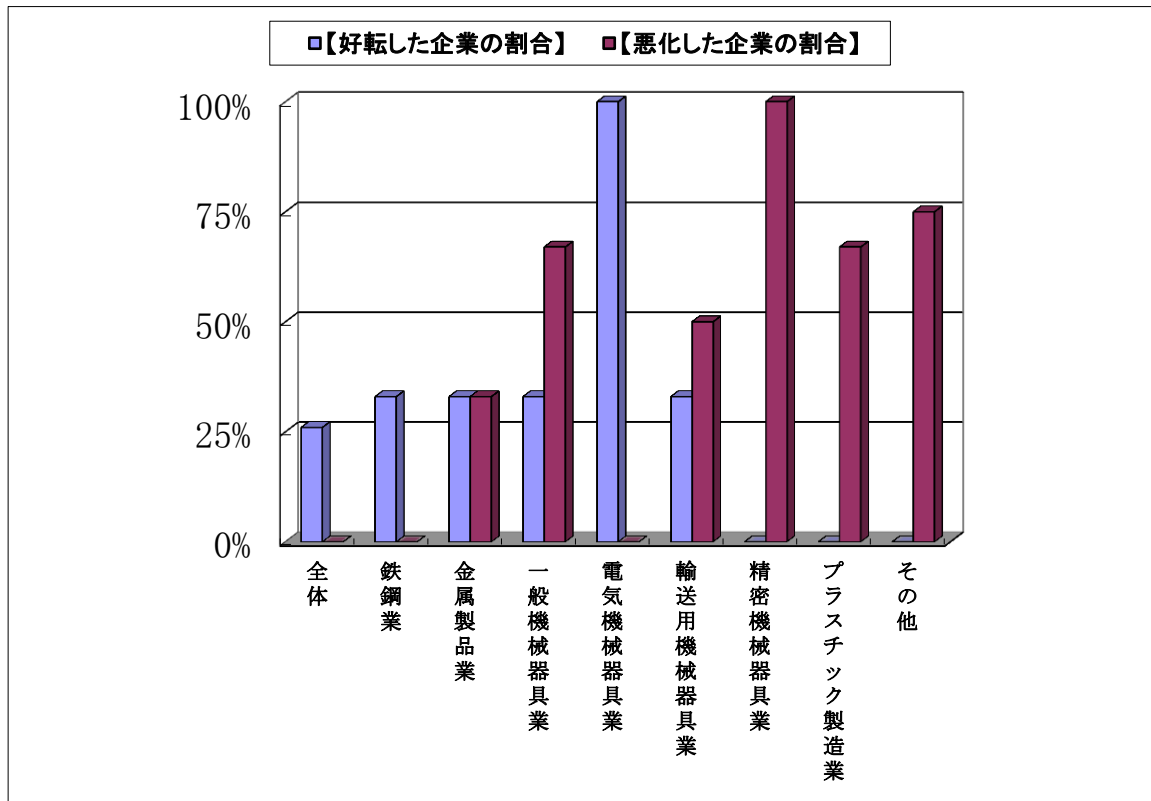
【建設業】



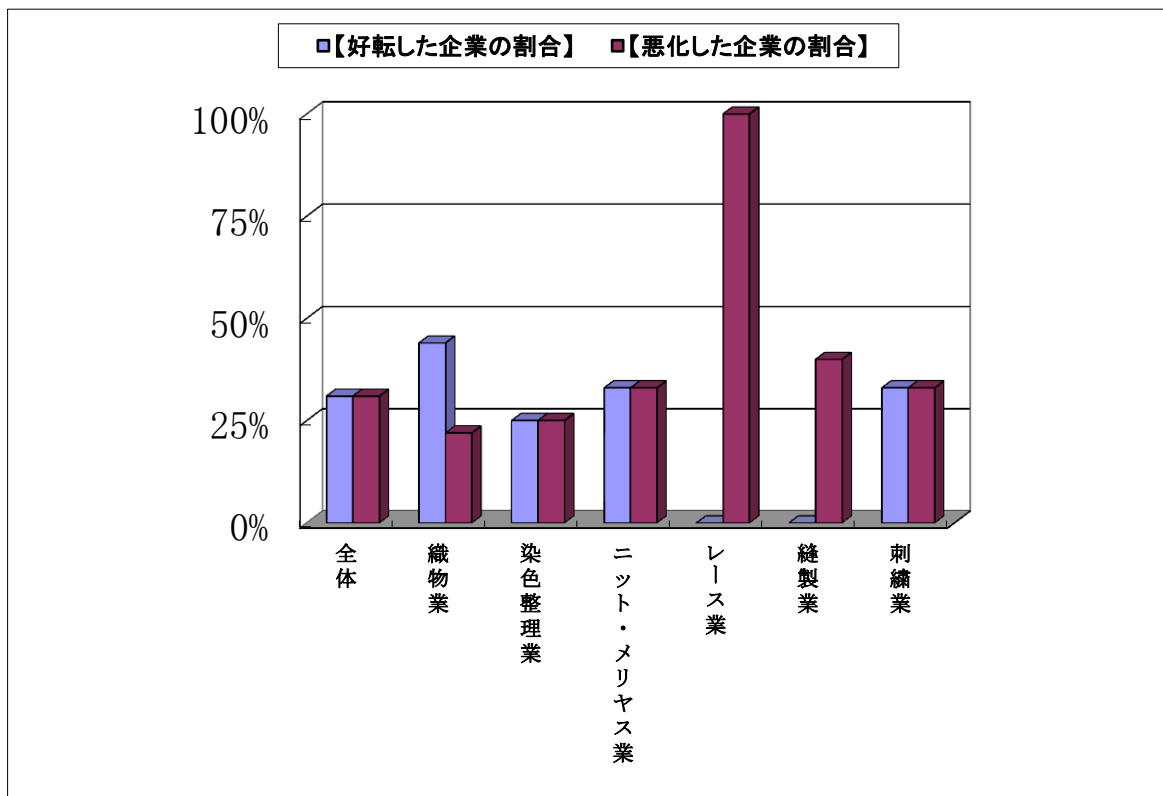
【商業・サービス業】



【機械金属製造業】



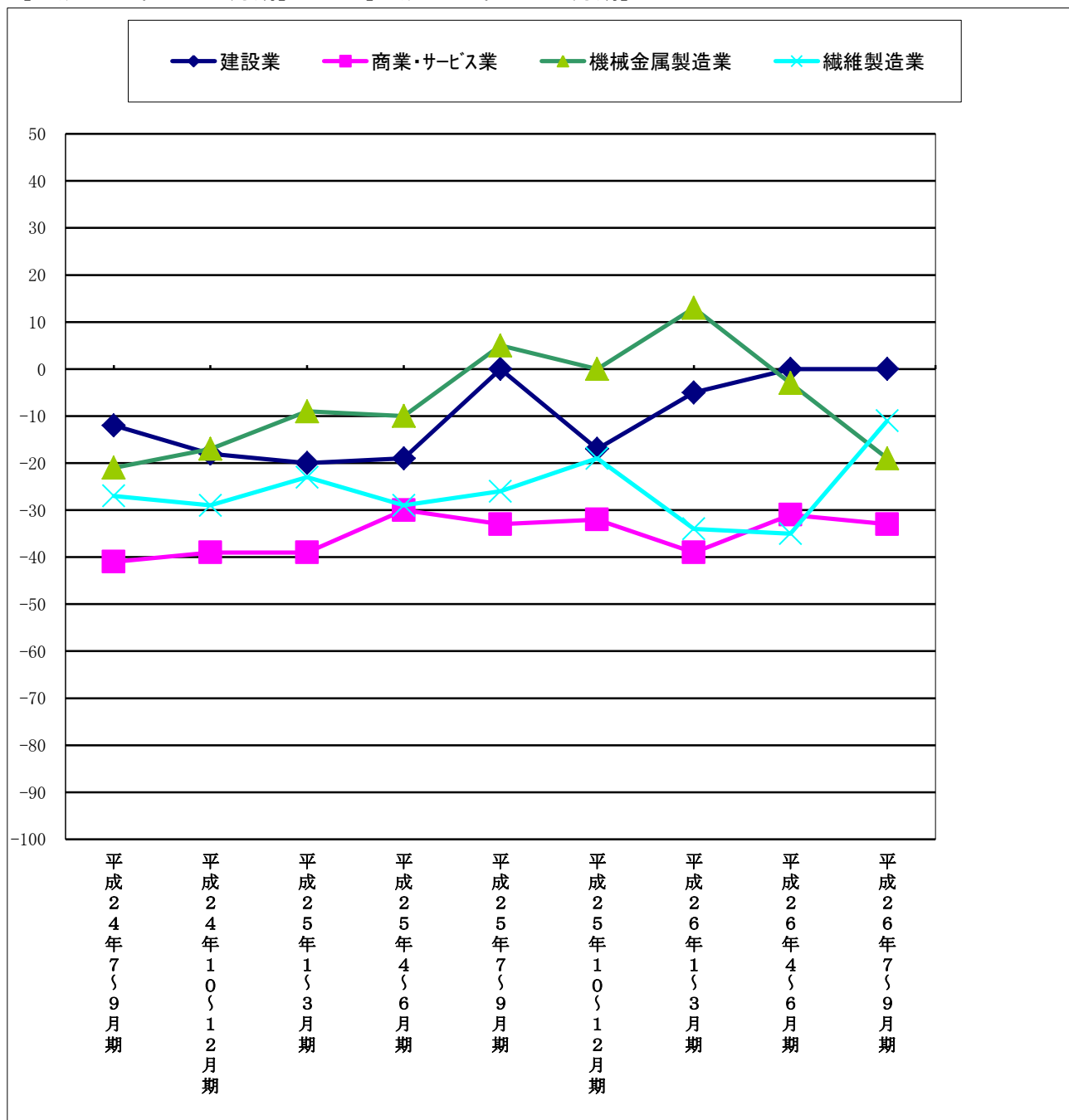
【繊維製造業】



資金繰りDIの推移

	建設業	商業・サービス業	機械金属製造業	繊維製造業
平成24年7～9月期	-12	-41	-21	-27
平成24年10～12月期	-18	-39	-17	-29
平成25年1～3月期	-20	-39	-9	-23
平成25年4～6月期	-19	-30	-10	-29
平成25年7～9月期	±0	-33	5	-26
平成25年10～12月期	-17	-32	±0	-19
平成26年1～3月期	-5	-39	13	-34
平成26年4～6月期	±0	-31	-3	-35
平成26年7～9月期	±0	-33	-19	-11

[平成24年7～9月期] から [平成26年7～9月期]



今期直面している経営上の問題点

	1位(%)	2位(%)	3位(%)	4位(%)	5位(%)
建設業	民間需要の停滞 13.2	下請単価の上昇 9.4	熟練技術者の確保難 9.4	下請単価の上昇 9.4	請負単価の低下・上昇難 7.5
前期	3位 9.6	5位 7.7	10位 3.8	2位 11.5	1位 13.5
前年同期	2位 12.8	5位 8.5	6位 6.4	5位 8.5	5位 8.5
商業・サービス業	需要の停滞 19.7	消費者ニーズの変化への対応 13.5	購買力の他地域への流出 7.6	販売単価の低下・上昇難 7.6	材料等仕入単価の上昇 7.2
前期	1位 18.8	3位 10.8	2位 14.1	5位 7.5	4位 8.0
前年同期	1位 22.5	2位 13.4	3位 11.5	6位 7.2	5位 8.1
機械金属製造業	需要の停滞 15.3	原材料価格の上昇 12.5	生産設備の不足・老朽化 11.1	製品単価の低下・上昇難 11.1	製品ニーズの変化への対応 11.1
前期	2位 15.7	3位 10.8	3位 10.8	1位 22.9	5位 7.2
前年同期	1位 21.6	3位 13.4	5位 7.2	2位 18.6	4位 11.3
繊維工業製造業	需要の停滞 25.0	製品単価の低下・上昇難 23.6	生産設備の不足・老朽化 12.5	原材料価格の上昇 6.9	製品ニーズの変化への対応 6.9
前期	1位 21.1	2位 17.1	4位 10.5	5位 7.9	3位 11.8
前年同期	1位 21.6	2位 18.6	5位 7.2	3位 13.4	4位 11.3

今期の従業員数D I

	建設業	商業・サービス業	機械金属製造業	繊維製造業
平成24年7～9月期	-13	-11	-6	-16
平成24年10～12月期	0	-8	-12	-6
平成25年1～3月期	7	-5	16	-6
平成25年4～6月期	6	-11	23	-10
平成25年7～9月期	6	-4	8	-9
平成25年10～12月期	-6	-9	16	-15
平成26年1～3月期	-5	-12	21	-14
平成26年4～6月期	22	-4	19	-12
平成26年7～9月期	26	-15	18	±0

事業所からのコメント（直面している問題点など）

【建設業】

- ・官工事は前年並み、民間工事の需要は低調。人手不足のため受注調整の傾向
- ・経済状況が先行き不透明

【商業・サービス業】

- ・社員教育の不足
- ・消費税の小売価格表示方法
- ・高齢による健康状態の不振
- ・従来は内税にせよとの指導だったが、今ほとんどの店舗が外税に。自店では内税で、しかも消費税の増税分を付加することが出来ずにいる。増税を強行すれば売り上げが降下するのではと恐怖である
- ・生産者が減少し、仕入が出来ない
- ・7-9月の消費落ち込みは今までに無いほどに厳しい。消費税8%と天候不順の影響、デフレ不況から脱却できておらず、商店街のシャッター通り化が進行している。来年の消費税10%はもう少し先延ばしした方が良いと思う。
- ・消費税の増加による不景気。今後ますます不況になると予測
- ・商圏人口の減少
- ・アルバイトの確保
- ・仕入価格の上昇
- ・全体の傾向か、資金を出し起業しようとする人が少なく起業オーナーを見出しが活性化しない。
- ・顧客と店主の高齢化
- ・エネルギーコストの増大による収益の圧迫
- ・1件当たりの販売単価が低下の傾向

【機械金属製造業】

- ・生産量は増し、人件費・電気料金など増えているが単価の低下により売上が減少している
- ・受注製品規模が小さくなっている

【繊維工業製造業】

- ・電気料金の増加
- ・引合いの減少